

食農教育「やまざと食農プロジェクト」  
を通して、  
地元基幹産業を知り、  
地域に根差した人間形成の基礎を培う

学校法人 帯広みどり学園

北明やまざと幼稚園

# 北海道河西郡芽室町

北海道十勝  
芽室町



人口 1.85万人  
基幹産業 農業  
特産物 小麦、甜菜、  
ジャガイモ、  
スイートコーン

ご当地グルメ 十勝芽室コーン炒飯  
発祥スポーツ ゲートボール  
出身人物 大乃国(第62代横綱)  
永原和可那(バドミントン)

# 北明やまざと幼稚園



昭和60年 設立認可

定員 180名

令和5年度 127名  
年少 42名  
年中 43名  
年少 42名

職員数 23名  
教諭 10名  
保育補助 4名  
事務員 1名  
調理員 3名  
技能員 5名

教育目標 『雑草のように強いところとからだ』

# やまざと保育の三本柱

1. 自然豊かな環境
2. やまざと牧場
3. やまざと食農プロジェクト

食農教育を推進している現芽室町長の思いに共感し、農業を通じた教育を検討したところ、使い切れていない広い土地と飼育している動物達の排泄物の循環など、教育上効果があるとみられる要素があり、食農教育の場として適していることを見出すことができ、やまざと食農プロジェクトと命名し、本格始動した。

やまざと  
牧場  
動物飼育

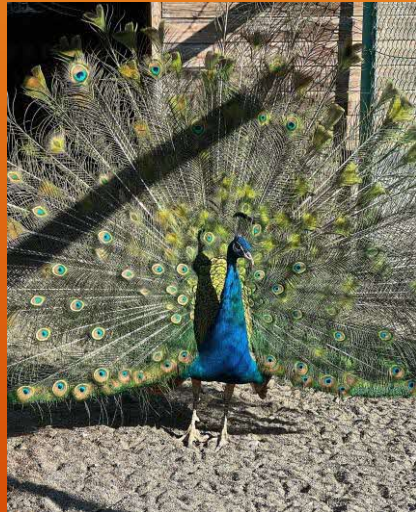
## 園児が動物たちの世話

食事を与える → 排泄する  
→ 清掃する → たい肥化  
→ 畑の肥料



やまざと食農  
プロジェクト

# ☆やまざと牧場



## やまざと食農プロジェクト ～ねらい～

- ・ 地元の基幹産業を知る。
- ・ 農業に興味を持つ。
- ・ 作物ができるまでの過程を知る。
- ・ 収穫の喜びを味わう。

これらを基本的なねらいとして、  
子ども達の心身の成長・発達を  
助長していきたいと考えている。



# やまざと食農プロジェクト ～活動～

- ・ 更地から始める畑作り。  
除草、土おこし、  
堆肥投入(やまざと牧場と関連)
- ・ 作物栽培  
育成、観察
- ・ 収穫
- ・ 食べる、作る

## 《栽培》

- ・ 十勝の保育施設では、北海道を代表する農産物であるジャガイモを植えるのが一般的。
- ・ そのほかに、大豆(えだまめ)、だいこん、ピーマン、トマト、かぼちゃ、など
- ・ メムロピーナッツ様の協力により、落花生を栽培

## 《育成・観察》

- ・ 作物の周りの草抜きや水やりを行ないながら、作物の成長・変化の様子を観察。
- ・ 教室に写真を掲示したり、成長の様子イラストなどで期待を高める。



## 《収穫》

- ・ 食べ頃になった作物から順次収穫し、その場で食べたり、給食の食材や石窯ピザの材料として使用。
- ・ たくさん採れた作物はお土産として持ち帰って、家庭で親子の食育活動に活用してもらおう。



# メモロピーナッツ（メモピー）



MEMUR8 PEANUTS

- ・ 芽室町の若手生産者集団
- ・ 北海道では難しいとされていた落花生の栽培に成功し、ブランド化。  
ゆで落花生をはじめ、ラテ、ワッフルなど、商品化も多数。



春 メムピーのメンバーの協力により、  
マルチを張る作業  
種まき  
パオパオを敷く



夏 除草、観察



# 秋 収穫 メンバーの皆さんと一緒に収穫 洗う→茹でる→食べる



# 《食べる（作る）》 やまざとピザ

- ・ 十勝地方は国内有数の小麦地帯。
- ・ 酪農地帯でもあり、乳製品も豊富。
- ・ 野菜もたくさん。



十勝の食材だけでピザ作りができる！





# やまざとピザ

- ・小麦(山本忠信商店)
  - ・チーズ(よつ葉乳業)
  - ・トマトソース(オーガニック専門家)
- +
- ・やまざと農園作物  
ピーマン、トマト



## 《食べる（作る）》 味噌造り

- ・ 隣町の音更町は大豆の産地。
- ・ 十勝管内中札内村は枝豆が名産。
- ・ 芽室町も大豆が育ちやすい気候。

採れたての枝豆も  
おいしいけど……

味噌造りもチャレンジしよう！



- 大豆を3時間程度火にかけ、ゆであがった大豆を子ども達が踏んで潰す。
- 麴と塩は給食室で予め混ぜてもらい、その時の動画を子ども達が鑑賞。
- 仕上げは子ども達。こねてボール状にした大豆のかたまりを樽へ投げ入れる。



※エゾシカによる被害もあり、収穫量が少なかったため、地元農家さんより提供していただいたものも利用。  
※年中児が行い、翌年の給食で使用。



## 《家庭農園》

- ・ 家族単位で農作業を体験できるスペースを無償で提供

### ～メリット～

- ・ 畑作りのお手伝いもしてもらえる
- ・ 家庭農園で使用した区画は、次年度子ども達の畑として活用することで、連作防止の対応が可能となる。
- ・ それぞれの成果から、次へ活かすなど、ノウハウの共有が可能。

## 《成果や効果》

年齢が低いので知識的な部分では難しいことは伝えられない分、子どもたちは直感的に体の中へ得ているという感じはします。

準備をした畑に植えた作物には水や栄養が必要でそれを与えることで、

また、雑草の侵食から守ることで育ち、おいしい野菜として食卓に運ばれていく。

そして、それを仕事としている農業従事者がいるということなど、一連の流れの中で知ることは多い。

野菜が苦手では食べられないという子どももいるが、自分で育てた野菜や調理した野菜は食べることができることが多い。コロナ禍で難しくなっていた賑々しい食事の時間も、育てた野菜や調理した野菜が話題ともなり、楽しい食事の時間により食が進む様子が見られた。

家庭菜園に参加する家族からは、家族で畑の成長について活動や話題など、他面において共有することができ、食への意識や関心は子どもだけではなく大人にも変化があった。SDG'sの取り組みの一つとしても子どもに伝わりやすいものだと感じた。

## 《今後の展望》

幼児にとって、食育とは食べることに力を入れがちだが、食育から発生する様々な事象は壮大です。

幼児教育の現場として、可能な範囲で、可能な方法で子ども達にわかりやすく、かつ直感的に理解できる、つまり五感をフルに使う食育を目指していきたいと思っています。

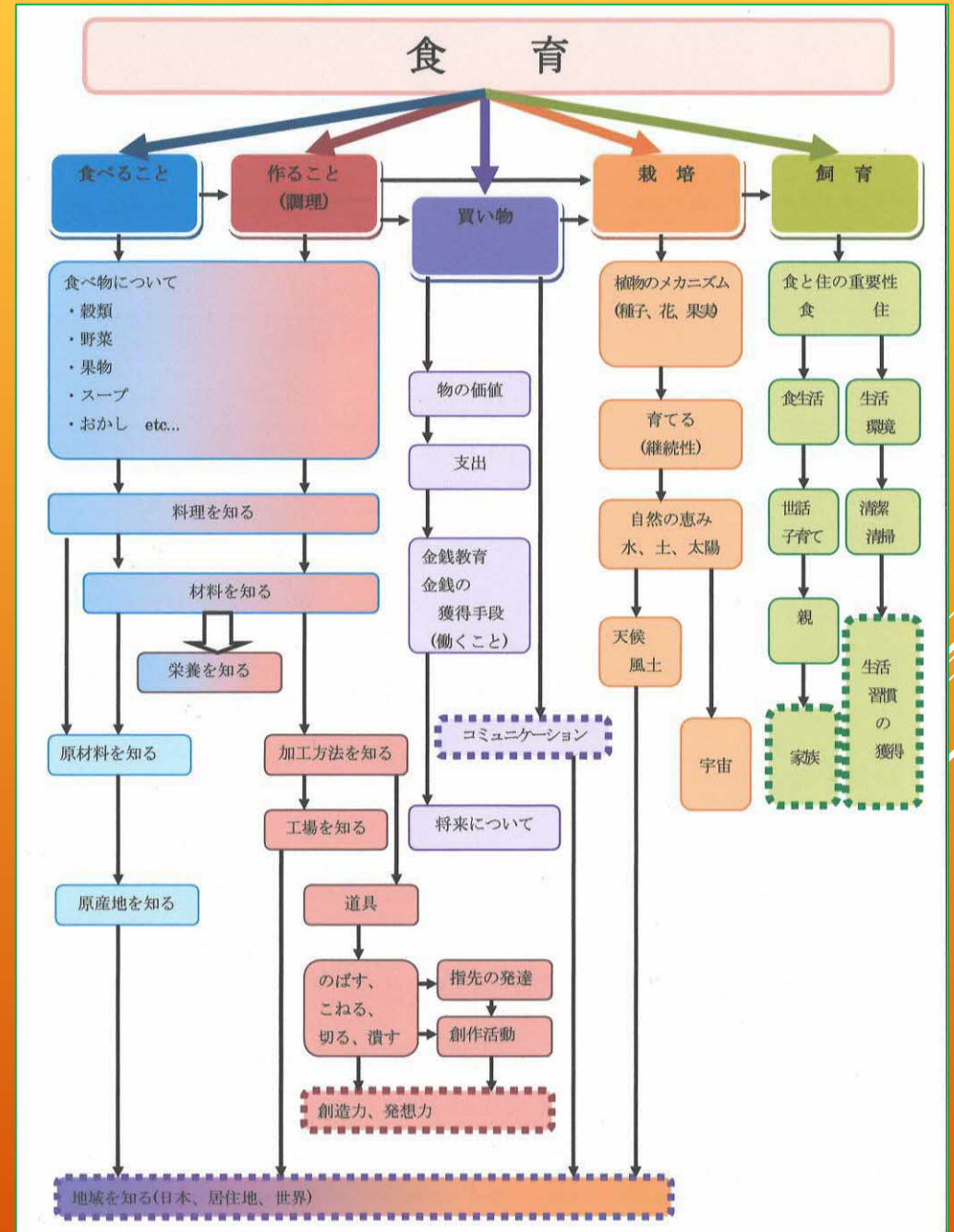
地元の基幹産業を身近に触れることで、  
芽室町(十勝)への地元愛を育てたいと  
思っていますが、  
その効果は今すぐには表れません。  
これからの時代を担っていくことども達  
がいつか地元に貢献できる人材（人財）  
として育ててくれることを願っています。



## 《今後の課題》

今後もプロジェクトは継続していく予定ですが、通常の保育業務に加えて保育後の農作業などもあり、職員の業務量が多くなり、多くの仕事がかたしきれないことが増えてきているので、運営する上での課題があります。

「食」の可能性は大きく、  
**食べる→食材→農業→自然(天候)→宇宙、**  
 と分野は果てしなく広がります。  
 あるいは、  
**食べる→食材→産地→地理**  
 へともつながります。  
 まだまだたくさんのことが潜んでいます。  
 当園では、食を基に、自然を学び、地理を学び、  
 子ども達が健やかに育つよう、見守っています。  
 今後、畑をさらに拡充し、  
 育てて収穫した野菜の販売体験も行なうなど、  
 工夫したらできることもまだまだ思案しながら、  
 当プロジェクトを発展させていくつもりです。





やまざるちゃん☆ねる



ご清聴ありがとうございました。

